



vol.100

2026年
2月28日
発行

日本山岳会

「高尾の森」通信



— 広針混交の豊かな森づくり活動 —

会員数：個人166名 法人9社
(2026年1月末現在)

自然と向き合い、語り合いながら歩んだ25年。
仲間とともに植えた苗木は、
世代を超えて受け継がれ未来の森を育む確かな力になることを願っています。



2025.11.22 25周年記念植樹から



セツブンソウ

キンポウゲ科セツブンソウ属の球根性多年草で、
石灰質の土壌や半日陰の涼しい場所を好み関東以西に分布する日本固有種。
早春に芽を出し節分の頃に花を咲かせることからこの名が付く。
環境変化などにより自生数は年々減少し準絶滅危惧種に指定。
絵：横川 信由

<https://jactakao.org/>



25年の歩みと、 未来へつなぐ森づくり

代表 大塚哲生



公益社団法人「日本山岳会」の自然保護委員会を母体として2001年1月に発足した当会は、本年、皆様のお力添えにより25周年を迎えることができました。長きにわたり活動を支えてくださった関係各省庁、ご支援団体、法人会員、個人会員をはじめ、全ての皆様の温かいご協力に、心より深く感謝申し上げます。

25周年の節目にあたり、当会ではホームページのリニューアル、記念手ぬぐいの製



作、そして都府林における補植など、未来を見据えた取り組みを進めてまいりました。また、広葉樹と針葉樹が調和する豊かな森を次世代へ引き継ぐことを目標に、これまで約2万本の広葉樹を植樹してきました。小下沢国有林では18,812本、都府林では494本、板当国有林では480本を植樹し、森の再生に向けた歩みを着実に積み重ねております。

高尾山系には30数種の哺乳類が生息するといわれ、当会では植栽地において動物カメラによる定点観測を継続しています。現在までに17種が確認され、森が豊かに移り変わりつつある様子が記録されています。特に2016年にメスジカが確認されて以降、その数は6年間で14倍に増加し、当会が植樹した苗の新芽も食害の対象となっています。このため、植樹と同時にツリーシェルターを設置し、苗の成長を守りながら森の再生を見守っております。

しかしながら、シカによる食害対策の強化や苗木代の高騰などを背景に、豊かな森づくりに必要な経費は年々増加しております。さらに、今後25年、50年と活動を継続していくためには、ベース小屋を含む設備や道具類の保守・維持費用を長期的な視点で確保することが不可欠です。こうした状況を踏まえ、まずは必要な経費の見直しを進めるとともに、イベント活動やホームページ等のデジタルメディアを活用した法人・個人会員の勧誘にも力を入れ、経費面・人材面の両面から体制強化を図りながら、未来へつながる活動を展開してまいります。





25周年記念植樹と紅葉鑑賞会のご報告

2025.11.22 (日) フィールド担当 早川憲也

今後の紅葉観賞会の在り方を模索する中で、見るだけの観賞会ではなく森づくりを体験する紅葉観賞会行いたいとの思いから、2年前に実施した山引き苗の採取に始まり、樹木に対する興味を抱かせるためのクイズ等色々考えてきました。その様な流れで2025年度の紅葉鑑賞会では2年前に採取した苗木を山に戻す構想を抱いている所に、会発足25周年を迎えての記念イベントの開催や、大塚代表が頑張っ25周年のイベントのために春の植樹祭とは別枠で補助金をゲットするなど色々な案件が重なったため、これらの新たなタスクをすべて紅葉鑑賞会にぶち込もうといった無謀な計画がスタートいたしました。



まず補助金の用途が「鹿の食害に対する補植」ということで、都有林4の沢での開催が絶対条件となりました。次に2年間育ててきた苗木を山に戻すため、植栽の規模は100本以上といったかなり本格的な植樹作業になりました。そして補助金で購入したツリーシェルターも設置しなければならないため、かなりタイトなスケジュールで進行することになってしまい参加者の皆様には慌ただしい紅葉鑑賞会となってしまいました。やはり紅葉鑑賞会はゆったり優雅に色づいた野山を愛でるのが良いかと反省する次第です。

最後になりますが、無謀なスケジュールをこなしてくれた参加者の皆様、および1～5班リーダーやスタッフの皆様、植樹の後に素敵な料理で癒して下さったキッチン班と餅つき担当の有志の皆様には厚く御礼申し上げます。



出来たて
どおぞ

小下沢縦断
ウルトラクイズ



肉!
うまいよぉ～



参加者	大人	子人	合計
一般	5名	2名	7名
法人会員	35名	3名	38名
個人会員	40名	—	40名
合計	80名	5名	85名

エリア	班名	植樹木	本数
4の沢奥上部	1班	カツラ	10
		ヤマザクラ	10
	2班	自家：コナラ	10
		自家：イロハモミジ	10
4の沢奥下部	3班	オオモミジ	20
	4班	自家：イタヤカエデ	20
4の沢手前	5班	自家：ケヤキ	6
		自家：オニグルミ	10
合計			106

*今回の植樹は「東京緑化推進委員会」の助成金により実施しております。



高尾の森づくりの会 25周年に寄せて

山仕事

J-POWER グループ・フォレストクラブ (J-POWER 顧問)
北村雅良

「山仕事に参加してみませんか？」と若い社員に声をかけられ、高尾の森づくりへ初めて参加したのは2002年4月だった。JR高尾駅前からバスに乗り、バスを降りて小下沢林道を辿って1時間ほど登ったところに対象山林があった。景信山から南東に広がる国有林である。そこは戦後復興の木材確保を目的とした大造林政策によりスギとヒノキの単相林となった山、この山を間伐しながら広葉樹を植えて70年後には針葉樹と広葉樹の混交林に戻そうとする気の長い取り組みである。主体は日本山岳会の自然保護委員会が中心になって2001年に立ち上げたボランティア団体「高尾の森づくりの会」。ここでは森づくりのためのさまざまな「山仕事」をやっていた。

● 植樹

私たち J-POWER は、2002年4月の「植樹祭」から参加しはじめた。植樹エリアはザリクボ沢の左岸斜面、かなりの急斜面だったが会員の皆さんが藪を刈り払い苗木を植えるスペースの「地拵え」をしてくださっていた。岩礫だらけの急斜面で「こんなところに植えて本当に育つのだろうか」と思いつつ、苗木を植え沢の水をかけた。植えた苗の7割は活着し、このとき私が植えたヤマザク

ラは今では胸高直径15センチ、背丈10メートルを超える立派な樹に成長し、毎年綺麗な花を咲かせている。

初参加から3年くらい経った頃、会社が法人会員になってくれたので私たちは「J-POWER グループ・フォレストクラブ」と名乗り、私は勝手に代表になった。定例参加は年3回だ。4月の「植樹祭」、6月の環境月間に合わせた「下刈り」、12月の地球環境月間に合わせた「間伐作業」である。もう23年に亘って森づくりに通いつけている。

● 下刈り

植樹したあと数年は周りの草を刈ってやらないと苗木は草藪に埋もれて成長できなくなってしまう。苗木が1mを越えるまでは心配だ。「下刈り」は草木が茂る夏場なので暑いことこのうえない。急な斜面で大ガマを振るうのはバランスを取るだけでもキツイし、ムンムンする草いきれ



下刈り作業 道具は大ガマ



夏の下刈り作業は汗だく

の中で汗がザアザア流れる。熱中症にならぬよう水をガブガブ飲むが、流れ出る汗とのイタチごっこだ。大ガマを振るうので隣との間隔を取らないと危ない。はじめの頃はリーダーによく怒られた。

● 間伐

植林後の山では、人手不足から十分な間伐が出来ず、密生し薄暗くなっている林がたくさんある。密生すると陽が当たらないので薄暗く、低灌木類や下草も生えない。雨が降ると表土が流され、ますます何も生えない裸地になる。スギやヒノキも密生すると互いに大きくなれず、ヒョロヒョロと伸びるばかりで材が太らない。しっかり根が張っていないため、台風で大量に倒れてしまう。そのため、育ちの悪い木を間引き、残す木の生育を促し、低灌木や下草も生える生態系豊かな森を育む。

ベテランはチェーンソーでみるみる木を切り倒していくが、私たちは刃渡り50cmくらいの手ノコで切る。腕がパンパンになるが、それでも結構な本数を間伐できる。切り倒すときは倒す方向が大事。方向を見誤ると周りの木に寄りかかってしまう「掛かり木」となり、そこから外すのは一苦労する。目標の方向へ引き倒すには、ロープがけも大事だ。倒すときには「伐倒！」と大声で周囲の仲間たちに報せ、目標とした方向の木の間にうまく“ドサーン”と倒せた時には拍手が沸く。

ある冬、こんなことがあった。追い口を入れ終わった私は「伐倒！」と叫び、木を押した。“メリメリッ”とゆっくり倒れてゆくと思ったが、いとも軽々と倒れていき、私は木と一緒に斜面を転がってしまった。ツルが薄すぎたようだ。転がり落ちた私は、頭を何かに“ガンッ”とぶつけて止まった。幸いどこも異常なかったが、頭をぶつけたのは切り株だった。ヘルメットが脱げていたらと思うとゾッとする。ヘルメットのアゴ紐を締めることの大切さを改めて思い、J-POWERの現場で働く仲間たちにもこの経験を伝えようと思った。帰宅して風呂で頭を洗っているとなんだか

ヒリヒリする。女房に見てもらおうと「あら、頭が1cmくらい切れているよ」と。切り株にぶつかった時、へ



薄すぎたツル



間伐作業は手ノコ



昼の弁当



作業を終えてこれから浅川食堂へ

ルメットがベコンとへこんで頭の表皮が切れたらしい。ショックを吸収してくれたヘルメットに改めて感謝した。

● 安全

「高尾の森づくりの会」の方々は、安全には本当によく気を配っている。大ガマ使用時の近接禁止や落石回避のための上下作業の禁止など、それは口やかましいほど注意が繰り返された。準備体操も入念にやる。おかげで約25年間、重大な人身事故は皆無。ただ唯一、会員のお一人が作業中に脳溢血を起こし、お亡くなりになってしまったのは誠に残念であった。ある年の下刈り作業中で私も属していた20人くらいの作業班の班長の方だった。無言で倒れたまま意識不明となり、皆で交代に人工呼吸しながらヘリの到着を待った。谷あい斜面で携帯電波が通じず、小下沢のベース小屋へ駆け下りる者と電話がある景信山の頂上小屋へ駆け上がる者と二手に伝令が出されたが間に合わなかった。やっと上空にヘリがやってきてスルスルとレスキュー隊員と共に担架が下りてきて、班長を吊り上げ飛び去って行った。交代で人工呼吸を続けた仲間たちは皆、ヘリを見送りながら気が抜けたようになっていた。その後、会ではベースに衛星電話、各作業班に無線機を一つずつ配備するようになった。

● 弁当・打ち上げ

作業したあとは本当に腹が減る。倒木や切り株に座り、仲間と共に食うニギリメシはたえようもなく美味かった。作業後の“反省会”も楽しみ。高尾駅前の「浅川食堂」を十数人で借り切って、飲みかつ語った。ビールのあとは地元の濁り酒。いつも2升は空いた。職場の上下関係は一切ない、山仕事仲間である。

バスターミナル整備により「浅川食堂」は営業を終了してしまったが、今も別の店で“反省会”を続けている。私は78歳になり山仕事は勘弁してもらっているが、“反省会”に参加するためベース小屋付近で山野草の写真を撮りながら皆が下りてくるのを待っている。

(2025年11月記)

25年の回想 龍 久仁人

雪との戦いであった。植樹祭を4月に控えてこの年は雪が多く、植樹地の整備に皆が雪まみれになって黙々と藪を刈払った。初年度2001年の植樹祭は、何もかも初めての体験。地ごしらえ、往路と帰路の林内歩道整備、篠竹の製作、苗木の調達、参加者募集、皆が役割を分担して夢中で働いた。数回の臨時作業も交えてようやく植樹場所のめどが立ち、植樹祭の前日は大勢が横一列になって1,000本の篠竹を立て終えた。皆もえに燃えていた。

植樹祭の日は一転して絶好の春日和、260人が参加してカツラほか24樹種1,000本の植樹を行った。NHKのテレビ取材も入った、下山後のベースではテントの周りにいくつもの人の輪ができ笑顔があった。当時のメンバーで今は参加されなくなった人も多かったが、往時の顔が懐かしく思い返される。

翌年からはザリクボの石ころだらけのガレ場に移って植樹を行った。裸苗のほか、土のないところはジフィポット苗、カミネッコンと工夫した。これらの森は今では立派な落葉広葉樹林に変貌した。その過程で下層植生

も劇的に変化した。タチツボスミレの花畑、ママコノシリヌグイの大繁茂、カナムグラの藪化、クマイチゴの林と目まぐるしく変わり、成林と共に下層は少なくなった。

現在、そのような植樹地の植生遷移や植樹木の生育状況を調査している。すでに前生のスギを追い越して25メートル超えの美林も増えた。このようにたゆみなく移り変わる森のなかに分け入るたびに、安らぎを覚えるのは私だけではないと思う。

この会の「多様で豊かな森の復元」という目標と、それを進める人の活動の環は今も少しも変わっていない。「継続は力」をこれからも実証していただくことを期待している。



感謝とともに迎える25周年と100号 松川征夫

会の創立25周年、併せて会報誌100号に感慨深いものがあり、森林管理署をはじめ関係団体、法人会員の方々にお礼を申し上げたいと思います。

私は2003年に入会しました。最初の作業は大ケヤキ横の植栽地づくりでした。コゲ沢右岸左岸の植栽地は20数年経ちましたので、今では毎年紅葉が見事です。また、現在は会員の年齢構成も様々となり急斜面は無理な会員も増えてきており、(私も)体力に合った作業が望まれ役員の方々のご苦労は計り知れません。2019年11月には忘れもしない台風19号で小下沢の氾濫などひどい目にあ

いました。でもそういった災害にも耐えていく植栽木は、きつと逞しく育つことと思います。昨年実施された美林見学(北海道大学 雨龍研究林)では見事な森林を拝見でき大いに参考となりましたことを記しておきます。

会報誌においては、100号まで欠刊せず頑張ってください。先輩の話では手書きでスタートされ、その後ワープロへ移行などご苦労されたようです。編集方針では「会員相互の情報誌、活動の記録媒体として活動を広く紹介、情報を共有し会の発展に寄与する」と謳っています。多くの会員が様々な特技を持っているのも我が会の強みです。

今後も皆で盛り上げて安全で楽しく心地よい汗を流し、地域に愛される団体を目指していきましょう。



台風19号で流失した林道



高尾の森通信 1号

11月活動日記

- このところ、板当での作業が続きましたが、3年ぶりの218林班での間伐となりました。
- ここ数年で入会した会員は間伐初挑戦の人も多く、対象エリアの木は細お～い木ばかりですが、初挑戦の人にはちょうど良い？あちこちで間伐教室!？となりました。



初めての間伐

追い口ってここでもいいかな？



こちらも初間伐

細っそいけど50年モノ

掛かり木に・・・

下山後の
お楽しみ



もくじ

- 25年の歩みと、未来へ……………02
- 25周年記念植樹と紅葉鑑賞会…03
- 高尾の森づくりの会25周年に寄せて…04
- 25周年を迎えて……………06
- 11月活動日記……………07
- 12月活動日記……………08
- 1月活動日記……………09
- 北大最古、最寒の森とは…………10
- チェーンソー講習実施報告……11
- 新会員紹介……………11
- 事務局からのお知らせ…………12

高尾599ミュージアムで 2つのイベントに出展

小木曾裕子

恒例の「秋のTAKAO 599祭」の丸太切り体験に11月1日～3日に協力。3日間とも比較的天候に恵まれ若い家族連れ中心に多くの方に体験していただきました。切った丸太の木片をベルトサンダーで仕上げ、手触りの良い木の温もりを感じるコースターは大好評でした。

もう一つも恒例となった「高尾の森と生き物たち展」(11月23日～30日)。2階の展示室において定点カメラで撮影した動物映像、木工品、活動のパネル等



を紹介し、工夫を凝らした積木やパズルを楽しんでいただきました。

2つのイベントを通じて会員になっていただいた方もあり、会を大いにアピールすることができました。

12月活動日記

いつも笑顔で
行ってきまあ〜す



A, B 班 間伐チーム

● 12月是一年の最後ということもあり、参加者がいつもより多い！皆さん作業が終わった後がお楽しみ？ 218林班ではA,B班混成チームで11月に引き続き間伐。上の横道ではB,C班の混成チームで作業道の補修が行われました。

●そして作業終了後は、お待ちかねの一大イベント！行きつけのお店貸し切りで大忘年会が行われ、ビンゴゲームでは全員が景品をいただきました。皆さん一年間お疲れ様でしたあ〜。



B, C 班 作業道補修チーム



ピロピロ〜っ！



2026 1月活動日記

- 一年の最初は恒例の山の神への安全祈願から。皆さん、ご安全に!
- 久しぶりの間伐は12月でいったん中断となり、定例の作業場所は再び板当へ。4月の植樹祭に向けて2026年度の植栽地の整備再開。藪との戦いがまた始まります。



故障から復帰した「やまびこ」



手袋をしているとはいえ、
フユザンショウをつかむ強者は
Who?



これがフユザンショウ



スッキリしたかな?

疲れたカラダに
おしるこ最高!



北大最古、最寒の森とは 組澤勝

10月29～31日の日程で、北海道雨竜郡幌加内町にある北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター「雨龍研究林」に総勢9名で行って来ました。

初日の途中、美瑛にある有名な「青い池」に立ち寄りしました。ここでは地下水のアルミニウム成分によりコバルトブルーに発色した池の青と、雪の白の美しいコントラストを楽しみました。

2日目に今回の目的地である雨龍研究林へ。この日の宿泊場所である雨龍研究林母子里宿泊施設に到着後、午後から雨龍研究林技術班長の宮崎徹先生の案内により雨龍研究林の見学を開始しました。雨龍研究林の面積は約2.5万ha。ここは道内でも有数の多雪寒冷地で冬季は-30度を下回り、森林タイプは針広混交林で日本最大の人口湖「朱鞠内湖」の周辺に位置し、貴重な原生林があり樹木を始め、動植物の研究が行われているとのこと。宮崎先生からは、アカエゾマツの倒木更新（アカエゾマツの発芽苗は土中の病原菌に弱く、主に

倒木上に落ちた種子が列状に並んで成長）をはじめミズナラの落下種子の研究など、非常に興味深い内容の説明を受けました。

最終日は男山醸造所見学や旭川神楽岡公園で野生のエゾリス・エゾフクロウなどを観察後、夕方無事羽田に帰着しました。

今回、北海道という雄大なロケーションで貴重な雨龍研究林を見学するなど、充実した3日間を過ごすことができました。雨龍研究林の皆様及び、企画して頂いた相澤篤幹事を始め関係者の皆様に御礼申し上げます。



母子里宿泊施設



朱鞠内湖



アカエゾマツの大木

チェーンソー講習実施報告

機械作業研修担当 森中大晴

今年度のチェーンソー講習は、参加者負担の軽減を狙い一部の日程を定例作業日に当てるなど工夫をし、9月14日、11月8日、9日の計3日間にわたり開催いたしました。座学から実技、現場実習まで全行程を終えた1名が無事に研修を修了しました。

熱心にご指導いただいた松隈副代表、および機械班の皆様、誠にありがとうございました。来年度からは小林幹事主導で開催予定です。さらにパワーアップした研修をご期待ください！



参加者の声 密度の濃い講習会でした 吉田真樹

私がチェーンソーを意識するようになったきっかけは、数年前の豪雨被害でザリクボ沢や林道脇に倒木があり、このまま放置していても良いのだろうかと思ったことからです。倒木は人間が手を加えず自然の力で分解されるのが良いのかもしれませんが、土石流の原因になるとの話も聞きまして、もし処分するとなった場合、チェーンソーを扱えるようになれば私も微力が尽くせるのではないかと考えていました。ただ、これまでの講習会は都合が合わずなかなか参加できませんでしたが、今回は私にとっては日程が良く漸く受講できました。

初日は受講者2名でしたが、二日目・三日目は私一人での受講となりました。当然、この二日間はとて密度の濃いものでした。講師の方々には貴重なお時間を私のために割って頂きまして、本当にありがとうございました。感謝しかありません。学んだことを活かせるよう、機会があれば少しでもお役に立てるように頑張ります。宜しくお願いいたします。



終了証授与

新 会員紹介



後藤宏です

豊かな人生に向けて

皆さま初めまして。後藤宏と申します。大学の先輩である小山さんから宴席で嬉しい?お声掛けをいただき、2025年10月の体験研修会より参加させていただきました。ちなみに会の立派なベース小屋については以前から小下沢林道を歩いて景信山や狐塚峠などに向かう時に横目で拝見しておりました。

デビュー直後は作業道を登って行くだけで息切れ疲労(涙)、足場の悪い粒砂利の斜面では全く踏ん張れない有様(泣)で、今後の活動参加について正直不安になりました。ただ回を重ねる度に今は徐々に作業の楽しみも感じてきましたので、今後は趣味の山歩きや内外一人旅、居酒屋巡りや古本漫画収集などと合わせて無理なく参加させていただき豊かな人生を過ごしたいと思っております。どうぞ皆さま、今後とも引き続き宜しくお願いいたします。



山岸弘伸です

山と鳥、そして森への感謝を込めて

今年度よりボランティアに加わりました、山岸です。大学の先輩である小山さんからご紹介いただいたご縁で、この素晴らしいチームの一員になれたことを大変嬉しく思っています。

趣味は山歩きや鳥見、そして旅をすることです。これまで各地の自然を楽しんできましたが、今後は「高尾の森づくりの会」の活動を通じ、支える側として大好きな高尾山に恩返しをしたいと考えています。作業は体力を要しますが、豊かな自然の中で心地よい汗を流すことは、自分自身の健康維持にも最適だと感じております。健やかな森を育む活動を楽しみながら、一生懸命に励む所存です。活動の合間に、皆様の旅の思い出や鳥の情報などもぜひお聞かせください。これからどうぞよろしくお願いたします。

若原勇之介です

森づくりの経験を子どもたちへ



はじめまして。このたび高尾の森づくりの会に入会した若原勇之介です。以前、体験に参加させていただいた際、人の温かさや作業の面白さを強く感じ、自分もその一員になりたいと思いました。

現在、小学校に勤めており宿泊体験行事で高尾に来

たり、社会科で林業に関する授業を行ったりすることがあります。その際の教材や題材を探しており、現場での体験や皆さまのお話から、子どもたちに伝えられる学びを深めたいと考えています。

林業や森づくりについては初心者で分からないことだらけですが、自然の中で実際に体を動かしながら学びたいと思い参加しました。森づくりの活動を通して、自然と人とのかわりや地域の知恵を吸収し、少しずつでも力になれば嬉しいです。経験が浅く至らない点も多いと思いますが、どうぞよろしくお願いたします。

「高尾の森 通信」紙からデジタル化へ

これまで紙媒体でお届けしてまいりました会報誌につきまして、制作環境の変化や効率化、そして時代の流れを踏まえ、次号よりデータ配信(PDF形式)へ移行することとなりました。引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

「高尾の森 通信」長年の印刷ご協力に感謝!

代表 大塚哲生

昨今の時代趨勢に伴い、次号(101号)から本誌もデジタル化に移行します。本誌は27号(2007年8月発行)より待望のカラー化がコニカミノルタ(株)様のご協力により実現しました。その時以来、長年に亘り印刷費をご負担いただき、心から感謝申し上げます。



高尾の森 通信 27号

活動記録

11/1-3	高尾599ミュージアム 「秋のTAKAO599祭 森の学校」 (来場者243名、会員延べ18名)
11/6	一丁整備 (会員7名、京王2名)
11/8	定例作業 (会員57名、法人1名、体験2名)
11/8,9	チェーンソー講習②③ (受講者1名、講師・運営4名)
11/22	25周年記念植樹 紅葉観賞会 (会員44名、法人・一般47名)
11/23-30	高尾599ミュージアム「高尾の森と生き物たち展」 (来場者1505名、会員延べ41名)
12/13	定例作業 (会員55名、法人13名、体験2名) 忘年会 (46名)
1/11	定例作業 (会員50名、法人2名)

2026年度 会費・保険料納入のお願い

新年度の会費・保険料の納入をお願いします。

① 納入には郵便振替をご利用ください。

会報100号に同封した「ゆうちょ銀行振込取扱票」にて納入ください。

現金・ゆうちょ銀行カード・ATM振込時は、振込料金は無料です(会が負担)。

●口座記号番号：00160-3-688239

●加入者名：日本山岳会「高尾の森づくりの会」

② 他の金融機関からの振込の場合

●銀行名：ゆうちょ銀行019(ゼロイチキョウ)店

●当座預金 口座番号：0688239

●口座名：日本山岳会「高尾の森づくりの会」

③ 納入期日 3月20日(金)

3月末に一括ボランティア保険に加入の手続きを行う関係上、期日までの納入にご協力をお願い致します。

④ 納入金額

	年会費	ボランティア保険料	合計
賛助会員	3,000円	なし	3,000円
一般会員	3,000円	500円	3,500円
家族会員	2,000円	500円	2,500円
学生	1,000円	500円	1,500円

注1：他の団体等でボランティア保険に加入する場合は、その団体名等を振込票に記入して連絡ください。重複して加入する必要はありません。

注2：機械作業登録をしている方で、継続しない方はその旨を振込票に記入してお知らせください。

編集後記



前任の松川さんから編集委員を引き継ぎ5年目に突入しました。松川さんからは「100号まで続ける」と言われ、引継ぎ当時はコロナの真ただ中！ ネタもなく大変な時期で、「100号なんてまだまだ先」と思っていたのですが、年寄りか故時間の過ぎるのは早く？ 何とか漕ぎ着けることができました。これまでご寄稿いただいたたくさんの方々をはじめ、関係者の皆さまのご協力に感謝申し上げます。そして25周年、この先もまだまだ継続していくために、会報誌もそろそろ新しい風を取り入れたいと考えています。[大島徹]

活動実績と予定

2/14	定例作業
3/14	定例作業
3/23-29	高尾599ミュージアム 「高尾の森と生き物たち展」
4/11	定例作業
4/12	植樹祭
4/19	京王親子森林体験スクール

会員動向

入会：ようこそ

鮎川優翔さん、佐藤梨々香さん、三浦史也さん

退会：お疲れ様でした

若村勝昭さん

幹事会報告

(詳細はホームページ会員専用ページを参照ください)

◆ 11月

協議事項 個人情報保護ポリシー案、年度予算の立て方と修繕積立について、他

報告事項 各活動の計画・実績報告、他

◆ 12月

協議事項 「高尾の森通信」電子化運用について、他

報告事項 各活動の計画・実績報告、救急救命講習会予定、ベース小屋修繕等、他

◆ 1月

協議事項 「高尾の森通信」電子化運用について、2026年度予算、植樹祭について、他

報告事項 都有林活動計画、救急救命講習について、他

大塚代表の
活動で見つけたいい話

9年前に設置した日本山岳会の看板の劣化対策を、昨年12月23日に実施しました。ご協力頂きました宮本さん並びに仁藤さん、有難うございました。

